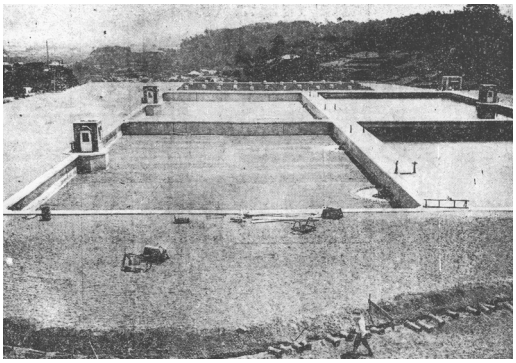
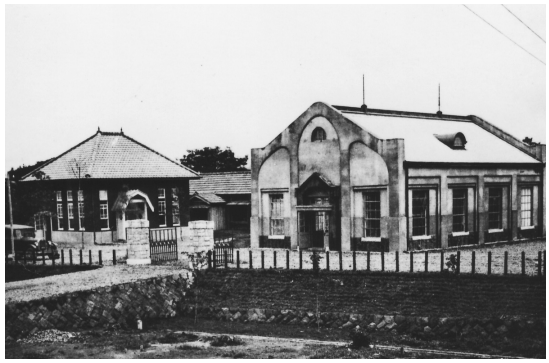
第２章　大分市水道事業のこれまでの歩み

■創設

昭和２年（1927年）、大分川伏流水※1を水源とする三芳浄水場が完成し、給水を開始しました。これが大分市水道の誕生です。



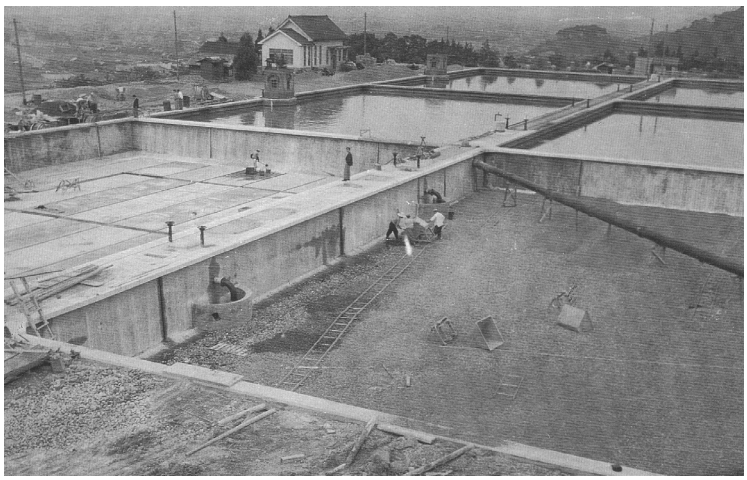
三芳浄水場ろ過池（昭和２年）



畑中ポンプ所（昭和２年）

■第１次拡張事業

昭和20年代になると、戦災復興で工場・各種施設の建設が相次ぎ、給水量が著しく増加したことから、昭和26年（1951年）に三芳浄水場の増設を主体とした第１次拡張事業に着手し、昭和32年（1957年）に完工しました。



三芳浄水場ろ過池増設工事（昭和30年）

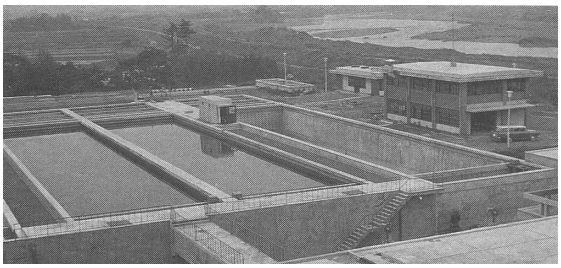
■第２次拡張事業

昭和32年（1957年）には、「大分・鶴崎臨海工業地帯建設計画」が発表されたことを契機に企業が相次いで進出し、人口が増加したため、昭和36年（1961年）に光吉浄水場の新設を主体とした第２次拡張事業に着手し、昭和42年（1967年）に完工しました。

用語解説

※１．伏流水・・・河川水は河道に沿って表流水となって流れる水の他に、河床や旧河道などに形成された砂利層を潜流となって流れる水が存在する場合がある。この流れを伏流水という。

滝尾羽田地区口径700mm配水管布設工事
（昭和39年）



光吉浄水場薬品沈澱池・薬品倉庫
（昭和41年）

■第３次拡張事業

昭和38年（1963年）、６市町村の合併による大分市が誕生し、翌39年（1964年）には「新産業都市」の指定を受けて工業や商業が飛躍的に発展し、人口は急激に増加するとともに、生活様式の多様化によって水需要は著しく増加しました。このため、昭和41年（1966年）、第２次拡張事業完工を前に第３次拡張事業に着手し、光吉浄水場の増設、大分川水系にえのくま浄水場、大野川水系に横尾浄水場の新設等に取り組み、昭和51年（1976年）に完工しました。

完成間近のえのくま浄水場（昭和44年）

横尾浄水場（昭和50年）

■第４次拡張事業

昭和59年（1984年）、市勢の発展により１日最大給水量が施設能力の限界に大きく接近したことに加え、大型住宅団地の建設が相次いで計画されていたことから、急増する水需要に対処し、水の安定供給を図るため、新規水源の確保と事業の拡張が急務となりました。

このため、昭和61年（1986年）、老朽化した光吉浄水場に代わり、古国府浄水場の新設を主体とした第４次拡張事業に着手し、昭和63年（1988年）に一部通水となりました。

古国府浄水場（昭和63年）

また、昭和63年（1988年）には、国による大分川ダム建設計画の基本計画が決定され、ダム建設に向けた取組が大きく前進したことにより、第４次拡張事業の計画変更を行い、現在はダムの本体工事が進んでいます。

平成17年（2005年）１月には、旧佐賀関町、旧野津原町との合併により、事業エリアが1.4倍に拡大したことから、市域全体の均衡ある発展をめざし、佐賀関、野津原両地区においても施設整備事業の推進により、水道水の安定供給に努めています。

建設中の大分川ダム（平成27年）

○上水道拡張事業の変遷

事　業　名	認可年月日	計画給水人口(人)	計画１日最大給水量（㎥／日）	竣工年度	主な工事
創　　設	大正14年４月８日	70,000	10,500	昭和２年	三芳浄水場新設
第１次拡張事業	昭和26年11月10日	100,000	28,000	昭和32年	三芳浄水場拡張
第２次拡張事業	昭和35年12月28日	200,000	60,000	昭和41年	光吉浄水場新設
第３次拡張事業	昭和41年１月７日	390,700	170,500	昭和50年	光吉浄水場拡張 えのくま浄水場新設 横尾浄水場新設
第４次拡張事業	昭和61年３月31日	416,100	197,200	平成３年	光吉浄水場廃止 古国府浄水場新設
第４次拡張事業変更	昭和63年３月31日	515,800	269,120	平成18年	
第４次拡張事業変更	平成16年12月27日	528,065	275,378	平成22年	古国府浄水場拡張
第４次拡張事業変更	平成20年11月17日	471,000	196,900	平成30年（予定）	